

---

# 俺と天使？【第三章】（４）

榛名屋 忍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺と天使？【第三章】（4）

### 【コード】

N0926R

### 【作者名】

榛名屋 忍

### 【あらすじ】

学校の近くにしばしば現れる不審者。菅原悠里が狙われ、警戒を強める中で夏樹への嫌がらせも続いていた。

「沙也佳、あのさあ」

「どうかしたの？」

翌日、悠里は沙也佳に昨日の事件のことを打ち明けることにした。

「最近、この辺りで不審者が出てるっていう話があるよね」

「うん。ターゲットは小学生から中学生の男子って言ってたわ」

「やっぱり…」

「もしかして、悠里も？」

「そうなんだ。昨日刃物を持った男に追いかけて…」

「怖っ。聞いた話だと、この間は小学生が川に突き落とされたらしいよ」

「ええっ」

「帰りはお父さん呼んだほうがいいかもね。」

「うん…」

暗い表情を浮かべる悠里の横で、沙也佳はあることをひらめいた。

「そうだ、渡会先輩にも話してみたら」

「え」

「今日の部活で。何も言わないのも変よ。」

「そ、そうだね」

放課後、二人が待っていると、部室の扉が勢い良く開いた。

「お疲れ様です」

「あ、来栖先輩！お疲れ様です」

「ごめんね、文化祭のクラス発表の準備が長引いちゃって」

「渡会先輩は？」

沙也佳が尋ねると、良人は頭を掻いた。

「発表の主役に当たってるから、今日は来ないかも」

「主役ですか？」

「ジュリエット役だっつて」

「ロミオとジュリエットをやるのね？」

夏樹の後ろから登場したのは晶だ。

「もしジュリエットがカンフーの達人だったら、というパロディらしいです」

「面白そうねえ」

「ちよつと、ゆーり。来栖先輩にも相談してみなさいよ。けんか強いんでしょ？」

「えっ、でも」

「何？」

「先輩、ゆーりが不審者に追いかけられて怖いって言ってるんです」「え?!もしかして、最近このあたりに出てる不審者のこと?」

良人は心配そうな表情で悠里を見つめる。

「たぶん…」

「なるべく一人で歩かないようにね。困ったことがあったら言っつて」「はい。ありがとうございます」

結局夏樹は来ないまま、部活は終わった。

夏樹が練習を終えて家に帰り、ポストを開けるとそこには一通の手紙があった。渡会夏樹様と宛名は書いてあるが差出人は書いていない。不審に思いながら開けると、そこには切り裂かれた写真が入っていた。

「これは…」

それは自分を写したものだ。ジュリエットの衣装をきている姿。練習を始めたのは昨日。この二日のうちに撮影したということになる。

(一体どこから撮影したんだろう・・・)

気にはなつたが、とりあえずは机の中に閉まっておくことにした。質の悪い嫌がらせだろう、と言いつ聞かせて。

翌日もポストには夏樹宛ての封筒があった。今度は幼い頃の自分

の写真だ。今度もバラバラに引き裂かれている。

(こんな昔の写真、どうやって入手したんだ?)

疑問に思いながら、夏樹は封筒を机の中に滑り込ませた。

次の日もまた、同じように封筒があつた。今度は夏樹ではないが、また見覚えのある顔。それは亡き母親を写したものだ。それを切り裂く人間が一人思い当たる。

「まさか……」

それは母の最後の恋人であり、自分を苦しめたある男。名も知らぬ男だ。夏樹は胸を抑えた。

「まさかね……」

次の日も、その次の日も、ポストには夏樹宛ての封筒があつた。中身は亡き母や幼い自分の写真。どれもバラバラに引き裂かれている。

「あいつなのか……?」

トントン、と部屋の戸がノックされた。

「夏樹くん、入っていい?」

「はい」

慌てて封筒をしまいこみ、声をかける。扉の向こうにいたのは夏樹の義母である千絵だった。

「千絵さん、仕事は?」

「一段落よ。今日は一日休めるわ」

千絵は大手新聞社の記者で、なかなか家には戻ってこない。大体は自分の取材専用車で寝起きしているようだ。

「そうですか。あの、何かありましたか?」

「うん。久しぶりだから夏樹くんの近況が知りたくてね」

千絵はニコリと微笑んだ。

(後書き)

小説ランキングに参加しています。お気に召しましたら、バナーのクリックをよろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0926r/>

---

俺と天使？【第三章】（4）

2011年10月7日23時14分発行